

令和4年度 評価計画及び自己評価

(計画 ・中間 (最終))

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

a 学校教育目標	自ら伸びる ともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) ・地域との協働のもと 主体的・自律的に生きる子どもを育成する。 <ビジョン>(将来の学校像) ・阿賀学園地域教育連携協議会(アカデミア)の活動を生かして、「活気ある楽しい学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」を目指す。
----------	-----------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	これまでも小中一貫して、生徒指導の三機能を生かした授業づくり・生活づくりを進め、効果を上げている。今年度は、これまで取り組んできたことを基盤に、個々の実態に応じた「個別最適な学び」の実現に向け、「主体的な学び」を促すことに重点をおいて取り組むことにより、資質・能力の向上を図っていく。具体的には、授業において、とりわけ、昨年度から導入されたタブレットを中心としたICT機器等の効果的活用を図りながら、より主体的に学習に向かう姿勢を育て学力のさらなる向上を図りたい。また、教室、SSR等の生活場面において、児童生徒が個々の目的をもち、安心して過ごせるための手立て、体制、集団づくり等の工夫に取り組みたい。すべての児童生徒の居場所をつくり、不登校等の課題解決を図っていききたい。 めざす子ども像 自分の考えをもつ子ども・最後までやりきる子ども・認め合い励まし合う子ども
------------------------------	--

育成すべき資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 自らへの自信 思いやり・感謝・貢献
------------	-------------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 2 3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の向上	④ 基礎基本の学力の定着を図る。	・学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。 ・「ドリルタイム」を年間計画に従って継続して取り組む。 ・漢字・計算の反復練習や課題克服のための学習を実施する。 ・個の課題に応じて、個別指導を行う。	・全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率を「0」をめざす。 ・標準学力調査で全国平均より全校平均がプラス5点以上をめざす。(※各学年プラス5点以上)	95%	98%	103%	A	98%	103%	A
・授業改善を進める。 ・①めあてを提示し全員で確認する ②自分の考えをしっかりとつ ③みんなの考えを交流する ④ふりかえりの時間を確保する。			・国語と算数の単元テストの平均点	85%	88%	103%	A	88%	103%	A	
・児童の授業満足度(よくわかる)			90%	92%	102%	A	94%	104%	A		
**	自尊感情の高揚	④ 思いやりの心を育てる。	・生活目標を示し、「返事・あいさつ・くつそろえ」を点検させる。 ・縦割り掃除を無言で行う。	・「返事・あいさつ・くつそろえ」の自己評価	90%	85%	94%	B	85%	94%	B
・クラスチャレンジ、阿賀小オアシス隊、阿賀小さきれいにし隊等の活動の充実を図る。 ・「くん・さん」や「ほかほか言葉」を使う。			・「自分が好きだ」「自分にはよいところがある」の自己評価	80%	77%	96%	B	76%	95%	B	
*	基本的な生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。	・栄養教諭と連携した食に関する授業の実施や委員会活動を巻き込んだ運動を展開する。 ・定期的に生活カードで点検し、保護者啓発を促す。	・「早ね・早おき・朝ごはん」の達成率(毎日朝ごはんを食べる。)	97%	94%	97%	B	94%	97%	B
体力の向上を図る。		・体育授業の充実、「阿賀小準備運動」・「あがり運動」を実施する。 ・体力テストに向けてブラッシュアップカードを活用する。	・新体力テスト(50m走、ソフトボール投げ、長座体前屈)が県平均を上回る。	65%	39%	60%	C	72%	110%	A	

業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。	・会議時間、研修時間等を短縮する。	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%	68%	85%	B	80%	100%	A
		長時間勤務を削減する。	・平日18時30分退校、週1日17時退校を徹底する。	時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数	96%	70%	73%	C	90%	94%	B

【k: 自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 **最終**)

阿賀中学校区 校番8 呉市立阿賀小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上	<p>貫 基礎基本の学力の定着を図る</p>	<p>○全国学力・学習状況調査の正答率30%未満、無回答率を「0」については98%、単元テストの平均点は88%、児童の「授業満足度」は、92%で目標値を達成した。 児童の実態把握に努め、校内研修(LSC)を行うことで日々の授業改善につながり、基礎学力の定着につながった。また、まとめや発展的な振り返りの視点を示した日々の授業を通して、思考力・判断力・表現力を向上することができた。</p>	<p>・正答率30%未満の児童や学力に課題がある児童については、授業での個別の支援や放課後の学力補充を引き続き行う。 ・レディネステスト等で、個のつまずきを把握し、授業改善にむける。 ・発展的な振り返りの質の向上のため、例示したり思考を促す声かけをしたりする。</p>
**	自尊感情の高揚	<p>貫 規範意識を高める</p> <p>貫 思いやりの心を育てる</p>	<p>○●「くつそろえ」は91%で目標値を達成したが、「返事」は83%、「あいさつ」は81%であった。 ○●「自分にはよいところがある」は81%で目標値を達成したが、「自分が好き」は71%であった。 生活目標やクラスチャレンジ、阿賀小きれいにし隊や各キャンペーンなど、学校全体で取組を進めたことで、規範意識を高めることにつながった。 地域での「ありがとうございます」のあいさつは、繰り返し指導してきたことで特に低学年で広がりを見せている。 全教職員が児童への肯定的評価や前向きな働きかけを意識し、担任等からの肯定的評価、児童相互のよいとこ見つけ等を日常的に行うことで、自尊感情の高揚につながった。</p>	<p>・あいさつ、くつそろえなど、委員会活動で児童主体で評価する取組を行い、規範意識等の向上に努める。 ・AJVやクラスチャレンジ、児童の日常の姿に対し、全体でがんばりを共有したり、肯定的評価をしたりする機会を今まで以上に増やし、自尊感情の高揚につなげる。</p>
*	基本的生活習慣の定着と体力の向上	<p>健康な生活を増進させる</p> <p>体力の向上を図る</p>	<p>○第2学年生活科、道徳科、第3、4学年学級活動、第5学年総合、第6学年家庭科において、学級担任及び担当教諭と栄養教諭が連携した指導を行った。 ●12月実施の学校評価児童アンケートの結果では、毎日朝ごはんを食べている児童は94.3%(肯定的評価)であり目標値に達していなかった。 ○意識づけとして実施している「あがり生活カード」の10月実施の結果では、毎日朝ごはんを食べている児童は92.7%と1学期より3ポイント増加した。 ○10月実施の食育朝会において、動画による簡単な朝食メニューを紹介し、後日動画配信を行うことは、児童の意欲向上につながった。 ●新体力テストの結果、県平均を上回った割合は、50m走は75%、ソフトボール投げは66.7%、長座体前屈は75%で目標値を上回り、2学期の取組の成果が表れている。</p>	<p>・委員会活動の常時活動としての給食時間の放送や栄養教諭と連携した学級活動等において、朝食の指導を行う。 ・視力低下防止の取組として、遠方凝視等の取組をしていく。 ・第3回のあがり生活カードでは、前回の結果を振り返りながら実施させ、児童の生活習慣向上の意識を高め、保護者啓発を行う。 ・朝の会での体カアッププログラム(児童の課題改善に向けた内容)、体育の授業で走・投の運動を意識的に取り入れることを継続する。</p>
業務改善	やりがいのある学校づくり	<p>児童生徒と向き合う時間を確保する</p> <p>長時間勤務を削減する</p>	<p>○「時間の確保」は80%であり、研修、暮会等の削減、放課後の会議等を計画的に組むことで、放課後の時間を確保したり、優先順位を意識したりして、時間意識を高めることが効果的であった。教科担任制により、教材研究の負担も軽減されている。 ○「時間外勤務45時間以内」は90%であった。達成困難な月はあったが、長期休業中に長期の見直しをもって取り組むことにより、月ごとの時間外勤務が徐々に減ってきた。</p>	<p>・放課後の時間確保に努めたり業務の優先順位や時間意識を高めたりするため、研修、暮会等の削減、放課後の会議等を計画的に組み、教科担任制も効果的に活用していく。 ・タブレットの活用、整理整頓、ペーパーレス等、効率的な職場環境の創造を継続して行っていく。</p>

令和4年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・**最終**)

阿賀中学校区 校番8 学校名 呉市立阿賀小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	阿賀小学校児童の実態に即した適切な目標や指標が設定され、その達成のために取り組まれている。基本的な生活習慣の定着について「毎日朝ご飯を食べる」の達成率に変化がないのは、目標の設定が適切とは言えないのではないか。
目標達成のための方策の適切さ	A	「知」・・・基礎基本の学力の定着においては方策の重点化と継続性が図られている。 「徳」・・・規範意識を育てるために、挨拶・返事・靴揃えの徹底が継続されている。 「体」・・・コロナ禍にあっても、日常的に健康づくり・体力づくりなどが行える方策である。 子ども達が主体となり、自主性が生きるクラスチャレンジや阿賀小きれにし隊、阿賀小オアシス隊、各種委員会活動等を今後とも大切にしてほしい。
自己評価の結果の分析の適切さ	B	目標達成に迫るために、きめ細かく分析し、特定された部分を明らかにしている。学力調査・新体力テスト等の結果分析など昨年度との比較において、継続実施し成果の上がった項目などの取組を評価することも必要ではないか。標準学力調査結果を経年比較することで、課題を明らかにし、授業改善に生かしてほしい。
今後の改善策(案)の適切さ	A	コロナ禍で目標達成を維持することは、並大抵ではないと思う。学校の取組の姿勢に頭が下がる。どの項目についても、現時点での目標値達成をもとに今後の改善策を練られている。「うまくいっていない要因」さらに「どう対応していくか」を職員で共有し、解決に努めてほしい。
その他		来校時、児童が黙々と清掃し、授業では集中して取り組んでいた。地域に住む一人として登下校中の児童の様子、先生方の手厚い見守り、保護者の学校への信頼を感じている。全体的に落ち着いた学習態度が見られるとともに、児童・保護者アンケートからも頑張りや満足度がうかがえる。日常的な積み上げの成果であろう。「継続は力なり」これからも経営目標の達成に向けて、一丸となって取組を推進されることを願う。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>授業や生活における居場所づくりを通して、主体的に学び、ともに伸びようとする子どもの育成を、今後も「チーム阿賀小」で継続して取り組む。</p> <p>子どもの「なぜ」から問いをつくり、学習過程における子どもの選択・決定する場面を仕組み、発展的振り返りといった学習スタイルを確立していき、学力の向上を目指す。</p> <p>見守りの方への「おはようございます」「いつもありがとうございます」といった気持ちのよいあいさつができる子どもを目指し、生活目標やクラスチャレンジなどと連動させたり学校通信で「あいさつ名人」を紹介したりする取組を継続実施していく。</p> <p>「朝食を摂る」「体力アッププログラム」「遠方凝視」などの取組を徹底、充実させ、体力づくり・健康づくりに努めていく。</p> <p>今後も、教職員同士の連携を大切にし、放課後の時間を柔軟に活用したり、適材適所を生かした作業分配を行ったりすることで、効率的な職場環境の創造を行っていく。</p>
--------------------	--